

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名 一般国道169号 奥漣道路 <small>おくどろどうろ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
起終点 自：和歌山県東牟婁郡北山村小松 <small>ひがしむろくんきたやまむらこまつ</small> 至：和歌山県新宮市熊野川町玉置口 <small>しんぐうしくまのがわちょうたまきぐち</small>			延長	6.3 km	
事業概要 一般国道169号は、奈良県奈良市を起点として、紀伊半島内陸部を縦貫し、和歌山県新宮市に至る延長190kmの道路であり、奥熊野地方の日常生活の支えとして、また観光地アクセスの経路として重要な役割を担っている。 奥漣道路は、国道169号における通行不能区間を解消し、沿線町村と新宮市との連携強化、沿線住民の生活道路としての機能確保、災害時や緊急時の安定した交通の確保、観光をはじめとする地域の基幹産業の支援などを目的とした道路である。					
S56年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	S58年度用地着手	S58年度工事着手		
全体事業費	210億円	事業進捗率	78%	供用済延長	4.1 km
計画交通量	1,400～2,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 3.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 34/311億円 (事業費：32/305億円 維持管理費：2/6億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 114/391億円 (走行時間短縮便益：90/349億円 走行費用減少便益：18/34億円 交通事故減少便益：5/8億円)	基準年 平成17年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=3.0(交通量-10%) B/C=3.7(交通量+10%) 事業費変動：B/C=3.0(事業費+10%) B/C=3.7(事業費-10%)					
事業の効果等 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上(新宮市へのアクセスが109分から75分へ34分短縮) ・二酸化炭素排出量の削減(年間3,167トンのCO ₂ が削減) 他12項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 奥漣道路は、通行不能区間の解消、災害時、緊急時における交通確保に重要な役割を果たすことが期待されており、和歌山県知事や十津川村をはじめとする2市2村で構成される国道169号直轄工事促進委員会より早期完成の要望(平成17年7月)を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 奥漣道路沿線地域は、人口は減少傾向にあるものの、人口あたりの自動車保有台数は、県の平均を上回って高くなっている。 平成8年7月に 期区間が供用し交通不能区間が解消された。また、平成16年3月には 期区間の一部が供用したところである。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・奥漣道路の 期、 期の建設にあたっては、 地形が非常に急峻であること これらの地形を通過するため、トンネル・橋梁等の構造物が大半を占めること 工事のための進入路が限られていること などから、工事は困難を極めたが、平成8年7月に 期区間(L=3.7km)を供用した。また、 期区間のうち、0.4km(奈良県吉野郡十津川村～和歌山県新宮市熊野川町玉置口地区)については、平成16年3月に供用した。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 現在2.2km区間の終点部に残っている用地(1件)については、共有地であることから、引き続き用地取得を完了させるため、地元新宮市と調整のうえ、地権者交渉を行っているところである。 用地取得は98%完了しており、引き続き事業を推進し、平成20年度全線供用を目指している。					

自治体名については、平成18年3月時点で記載

施設の構造や工法の変更等

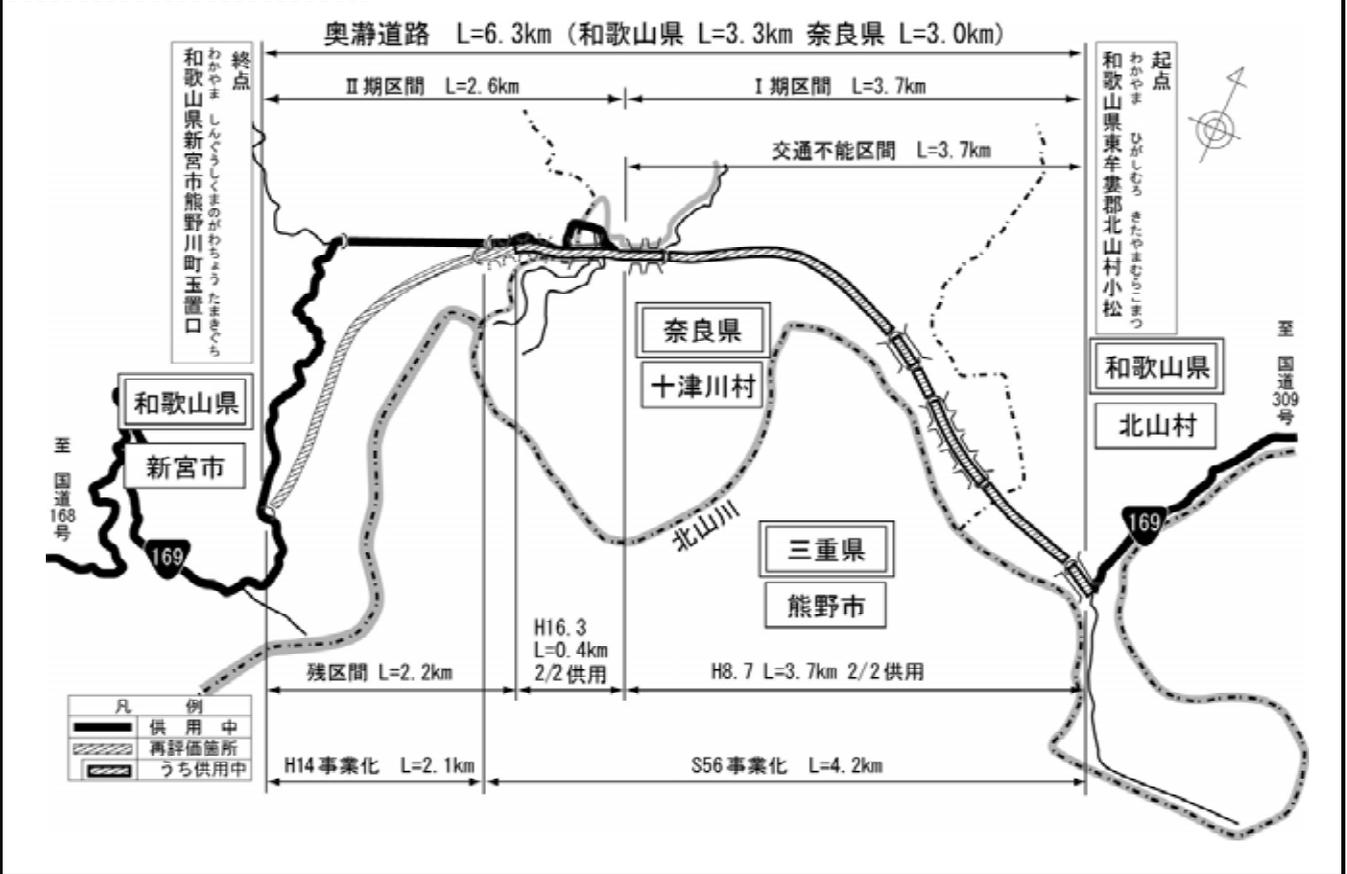
施工にあたっては、完成後の道路管理者である和歌山県との協議により、トンネル点検用として車道横に設ける監査歩廊を省略するなどにより、トンネル断面積を従来より約10%縮小し、コスト縮減を図るとともに、新技術の積極的な活用や建設発生土の有効利用等で更なるコスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。自治体名については、平成18年3月時点で記載